



目指す児童生徒像

自分を大切にし、他者を思いやれる子 あいさつや感謝の気持ちを表せる子 自分の力を信じ希望をもって進む子 目標に向かって粘り強く頑張る子

子供たちの実態と課題

- ・長期入院や不登校経験による学習の遅れにより、進級・進学への焦りや社会体験等が不足しがち。
- ・学校と家庭以外の場所での行動や人とのかかわりが苦手。
- ・情緒の変動が大きい。(安定と動揺に差がある)
- ・自己肯定感が低く、客観的な自己像が捉えられず自己評価できない。
- ・生活リズムが乱れがち。
- ・意思決定の力が乏しく、責任転嫁しやすい。

目指す児童生徒像になるため

- ・障害や特性を理解し、改善・克服しようとする姿
- ・任された仕事に対し、最後まで取り組むことができる姿
- ・周りの人と協力して活動することができる姿
- ・自分を大切にし、自分に自信をもつことができる姿
- ・目標に向かって失敗を恐れず、様々なことに挑戦しようとする姿

目指す児童生徒像になるための必要な3つの資質及び必要な能力(力)について



目指す児童生徒像なるための3つのステージ



目指す児童生徒像になるために各学年(段階)で身に付けたい力

	小学部 又は 初期段階(知る)	中学部 又は 中期段階(選択する)	高等部 又は 後期段階(決定する)
社会性	①当番活動や委員会活動等、様々な体験的活動に参加することで役割分担の必要性を理解する。 ②体験や見学をとおして、社会におけるマナーや規則を知る。	①職場体験や見学等を通して、様々な職種や仕事内容を知ることに関心をもち、大まか方向性を選択する。 ②ルールやマナーを守って行動する。	①実習を通して望ましい職業観や労働観を身に付けつつ、進路を決定する。 ②社会や所属する場の規則やルールを遵守したり、場に応じたマナーを実践したりしながら生活する。
自己管理能力	①学習や活動の中から自分の好きなことを見つける。 ②自分のペースで学校に登校し、学校生活に少しずつ適応する。 ③正しい生活リズム・生活習慣を身に付ける。	①自分の得意なことと不得意なことを理解する。 ②自分で活動を選択し、一定時間活動に参加する。 ③体調を把握し、不調時の対処方法について教師と一緒に考え自分に合った方法を選択する。	①社会生活における自己の適正を考えて、自己の進路を主体的に決定する。 ②与えられた活動に責任をもって最後まで活動に参加する。 ③健康管理方法や不調時の対応方法について理解し、自ら行動に移す。
人間関係の形成	①言葉遣いを意識して、挨拶や会話をする方法を知る。 ②誰かと一緒に選んだり活動したりする経験を積む。 ③自分の意思や感情を身近な人に伝える方法を知る。	①目上の人に対し、丁寧な言葉遣いで挨拶や会話する。 ②友達や教師と一緒に活動する中で、場に応じた行動をする。 ③自分の意志や感情を教師や親以外に伝える。	①他者と場に応じた適切なコミュニケーションを取る。 ②周りの人と働きかけ合いながら協力して活動する。 ③誰にでも必要に応じて支援を求めたり、相談したりする。